

TV 報道検証【報道特集】 報告書

テレビ局：TBS	番組名：報道特集	放送日：2019年11月9日
出演者：金平茂紀、日下部正樹、膳場貴子、近藤夏子 阿部俊輔（特集で高齢者を取材したディレクター）		
検証テーマ：オープニング、香港デモ、皇居前広場で国民祭典 【特集】人生100年時代の高齢者と社会		
報道トピック一覧 <ul style="list-style-type: none"> <li>・池袋高齢交通事故</li> <li>・オープニング</li> <li>・大阪で覚醒剤取締違反の罪に問われている被告が検察車両から逃走</li> <li>・香港デモ</li> <li>・京アニ放火事件容疑者が任意の聴取に「どうせ死刑になる」</li> <li>・皇居前広場で国民祭典</li> <li>・神戸市の教諭いじめ問題について</li> <li>・宮城県丸森町で被災者に車を無料で貸し出し</li> <li>・セサミストリートに薬物中毒の母を持つ新キャラクター</li> <li>・護国神社宮司が強制性交未遂</li> <li>・東久留米市男性殺害事件</li> <li>・茨城県小美玉市でコンビニ強盗</li> <li>・【特集】大水害一ヶ月～避難の在り方は</li> <li>・【特集】人生100年時代の高齢者と年金</li> <li>・スポーツ報道</li> <li>・</li> </ul>		
放送法第4条の見地からの検討・検証および該当トピックの報道内容要旨 <ul style="list-style-type: none"> <li>・オープニング：結論→特に問題なし                      金平キャスターが「冷戦の象徴だったベルリンの壁が崩壊してから今日で30年になります、当時多くの人は壁がなくなったことを喜び、自由を謳歌しました。それが今、世界は再び壁を各地に作り出し、表現の不自由を嘆く世の中にいます、私達はどこからきてどこへ向かっていくのでしょうか。」とコメントしていた。                      このコメントに当てられた時間は24秒で放送法上は特に問題は見られなかった。</li> <li>・香港デモ：結論→特に問題なし                      スタジオで膳場キャスターが「香港で一連の抗議活動が始まってから5ヶ月、昨日死亡した男子大学生の追悼集会在今日も行われる一方、今年5月に議会を妨害したとして民主派の三人が起訴されました。」                      "奥野宏輝（報告）「今日も現場には追悼のため、多くの人が訪れています、花の数もどんどん増えています、そしてあちら、埋め尽くすように追悼のメッセージがはられています。」                      参加者A「亡くなった人のために声を上げたいと思います。」                      ナレ「抗議活動に参加したと見られる大学生の死亡をうけ、追悼集会在今日も行われています。一連の抗議活動による死者は初めてとされる一方、将来を悲観し、既に自殺者もでているとの声も上がっています。」</li> </ul>		

参加者 B「とても悲しいです。」

参加者 C「香港の自由が失われたと感じます。」

ナレ「また、地元メディアによりますと警察は昨夜、立法会で 5 月に逃亡犯条例改正案の審議を妨害したとして三人の民主は議員を逮捕、起訴し、同じ容疑で他の議員四人も逮捕する方針です。」

このトピックに当てられた時間は 74 秒で放送法上は特に問題は見られなかった。

・皇居前広場で国民祭典：結論→特に問題なし

スタジオで膳場キャスターが「民間団体が主催する天皇陛下の即位を祝う国民祭典が皇居前広場で行われています、このあと人気アイドルグループ嵐がお祝いの曲を披露します。現在の様子を中継でお伝えします。」とのコメントの後、中継から以下に朱記した様子が伝えられた。

"榎尾昂（報告）「はい、あちらのステージはつい先程まで各界の代表者から陛下の即位に対する祝辞が述べられていました、秋の夜とあってやや肌寒いなか、会場にはおよそ 3 万人が集まっています。午後一時半から皇居前では陛下の即位を祝って阿波おどりや沖縄エイサーなど全国各地の郷土芸能によるパレードが行われました。」

訪れた人 A「みんなでお祝いできるというのはすごくいいと思いますね。」

訪れた人 B「すごくおめでたくて、うれしくて、もうひとりでニヤニヤしちゃいますね。」

榎尾昂「午後 5 時過ぎから始まった祝賀式典ではまもなく人気アイドルグループ嵐が登場し、陛下が研究する水をテーマにしたお祝いの曲を披露します。また、両陛下が姿を見せる場所ですが 2009 年の国民祭典のときとは異なります、上皇后陛下は奥に見えます鉄橋で国民の祝意に応えられましたが、今回両陛下はより国民に近い手前の石橋に姿を見せられます。その理由について宮内庁の関係者は国民の中に入っていきたいというお気持ちの表れでは、と話していました。以上、中継でした。」

また番組の終盤ではスタジオの膳場キャスターが「さて、ニュースでもお伝えしました天皇陛下の即位を祝う国民祭典ですけれども先程、天皇陛下がお言葉を述べられました。午後六時過ぎ、自衛隊の演奏が響き渡る中、両陛下が皇居前に集まったおよそ 3 万人の前に姿を表されました。安倍総理の祝辞の後、この日のために作られた奉祝曲が披露されました。ピアノの演奏は盲目のピアニストとして知られる辻井伸行さん、歌は人気アイドルグループの嵐です。」とコメントした後に、以下に朱記した VTR が取り上げられていた。

嵐（奉祝曲）「はじめはどこかの岩かげにしたたり、落ちたひとしずくの雨が平野流れ、やがて研ぎ澄まされ君を潤し鳥たちを育み花たちとたわむれ、あの大河だっちはじめはひとしずく、僕らの幸せも大河にすればいい、ご覧よ、僕らは君のそばにいる。君が笑えば世界は輝く」

ナレ「そして天皇陛下がお言葉を述べられました。」

天皇陛下「先に、即位礼正殿の儀をおこない、即位を内外に宣明しました。ここに改めて国民の幸せを祈るとともに、我が国の一掃の発展と世界の平和を願います。」

ナレ「明日は陛下の即位を祝うパレード、祝賀御列の儀が行われます。」

このトピックに当てられた時間は 222 秒で放送法上は特に問題は見られなかった。

・【特集】人生 100 年時代の高齢者と社会：結論→問題あり

スタジオでの膳場キャスターの「では次の特集です。老後に 2000 万円が必要という金融庁の報告書で注目を集めた年金についてです。人生 100 年時代といわれる中、老後を安心してすごすためには、どうしたらいいのか。年金だけでは暮らせない現実と、新しい生き方を模索するシニアの動きを追いました。」というコメントを受けて以下に朱記した特集の VTR が取り上げられていた。

"女性「すごい狭いけど入れますか〜。」

ナレ「72歳の佐藤澄江さん。東京都内で一人暮らしをしている。65歳で、定年退職して、年金を受給するようになったのだが、」

佐藤さん「実際に（社会保険事務所で）計算してもらったときに、あまりの少なさにうっそみたいなね。何か間違っていないかと、」

ナレ「2カ月ごとに振り込まれる年金は、およそ14万4000円。月にして7万円余りで、家賃にも満たないほどだった。」

ナレ「若くして、離婚し、女手一つで、二人の子供を育て上げた佐藤さん。日中は、自ら開いた音楽教室で、夜はデータ入力の会社や、弁当工場などで働いた。自営業やパートが長かったため、厚生年金に入れたのは、わずかな期間だった。」

佐藤さん「2000万円足りないとかって、そんな悠々暮らせる人を一緒にたにして、平均出したって、話が違うでしょと思います。どんだけ困ってる人がいるかで話をしてもらわないと。」

ナレ「佐藤さんが憤っているのは、6月に金融庁のワーキンググループが公表した報告書だ。長寿化が進行し、人生100年時代と呼ばれるかつてない高齢社会を迎えようとしている。としたうえで、老後の30年で、2000万円が必要と、指摘した。」

ナレ「これに対し、麻生大臣は、年金への不安を与えているとして、受け取りを拒否。」

ナレ「金融庁はこの報告書を議題にしないと、決めた。」

ナレ「2000万円というのは、自分にとって現実感が無いという佐藤さん。65歳になってから、半年間、就職活動を続けた。そしてようやく見つけたのは、」

ナレ「年金は、月7万円あまりという佐藤澄江さん。半年間就職活動を続けた。そしてようやく見つけたのが、介護施設でのこんな仕事だった。電子オルガンの経験を活かして、介護が必要な人達に音楽療法と呼ばれるリハビリや、レクリエーションを行っている。」

佐藤さん「音楽関係は雇っていないんですって。そういう募集じゃないんですといったところを、あの、ぜひやりたいので、お役に立てると思うので、って」

佐藤さん「いやいやのところをね、無理無理入ってですね、」

ナレ「勤務は、週20時間。収入は、月8万円ほどだが、年金と合わせて、何とかやりくりしている。」

佐藤さん「これが無かったら、どうなるんだろうかと思います。だから考えたくありません。いくつまでするか。けがをしないようにとかね。そうして・・・」

介護士「はい血圧を取らせてねー。」

ナレ「佐藤さんが働く、社会福祉法人ほうゆう会では、年齢に関係なく、職員を雇っている。70歳の看護師。介護職の最年長は、なんと87歳だ。」

食事介助担当者の女性（87）「働くことってというのはね、本当にあの、生きがいですね。楽しいです。働かしていただけるということは、もうありがたいことだなーと思って」

ナレ「採用担当者はこう話す。」

社会福祉法人「奉優会」人事部 舟本あい子さん「利用者の方々と、比較的年齢層が近いということもあって、ご自身のご家族だったりですとかの介護経験がある方々が、非常に多くなってござりまして、利用者さんやご家族に対しての、理解を持って接していただけるというところで、」

ナレ「今の仕事について、佐藤さんは、」

佐藤さん「介護なんか、全く興味なかったんですけど、でも、入ってよかったです。私は高齢者こそクリ

エイティブだと思っています。(自分が)60になったらどんなばあさんになるんだろうと思ってすごく嫌だったんですけども、60になったからといって、やっぱり機能的なものはもちろん落ちますけれども、感性とか、それから好奇心とか、向上心とかっていうのは、違うと思うんですね。」

ナレ「歳を重ねても、働きたいシニアは、増えている。」

女性「はい、あのこちらになります。求人票は中においてございますので、はい。」

ナレ「8月、東京都内で開かれた企業の合同面接会。対象は55歳以上のシニアだ。最年長は、81歳。定年後も働きたい多くの人たちが詰めかけた。」

参加者「精神的に大変な仕事は無いとおもちゃって、例えば昔だと、結局あれ、数字があるじゃないですか。」

企業担当者「これだけ稼いでこいとか言うこともないですし、なんかできていないから、お前できていないじゃねーかで追い込まれることもないですし、自分の与えられた仕事を朝来て、ちゃんとやったら、もうそのまま帰ると」

ナレ「ビル管理に清掃の他、介護や、保育補助など、さまざまな職種が並ぶ。」

ナレ「老後の資産にかんする相談ブースも、設けられた。」

参加者「定年後に、2000万だとか、といわれるけど、まあそんなにならなから、9時から3時くらいまで働こうかなと思って。」

参加者(61)「60からの就職活動の方が、いろんな仕事があるかなと思って・・・」

スタッフ「やっぱり年金だけで生活するってのは、やっぱりそういうのは、あんまりない？」

参加者「考えられない。うーん。やっぱりずっと40年以上働いて来て、っていうことで、やってきているから。やっぱり」

女性「人生100年時代でしょ？やっぱり生活するのは、必要よね。お金。」

参加者(50代)「年金といたって、ね、お涙頂戴ぐらいのもらっても、しょうがないんじゃない。」

ナレ「シニアを、貴重な戦力と考え、定年を引き上げる企業も増えている。首都圏のスーパー大手サミットは、3年前にシニア社員を75歳に引き上げた。」

サミット人事部 熊谷宏二グループマネジャー「これだけ、人手不足が進みますと、今いる社員の方たちに、より多くのことを考えてやっていただくと、いうことが必要になってくるかなと思い、引き延ばしをしました。」

ナレ「今では、70歳以上も、400人余りが働いている。健康診断に加えて、商品の成分が見えるかなどといった、健康面のチェックを、半年に一回、行っているという。」

32年間勤務 設楽万里子さん(70)「早くに主人を亡くしたものですから、その点でもすごくありがたく思っております。できれば、ずっと元気なうちは、働きたいと思っております。」

17年間勤務 東 静代さん(71)「健康維持ってついたらおかしいんですけどもね、動いて、頭使いながら仕事ができるってのがすごくいいなと思いますし、」

ナレ「65歳を超えても、働き続けるシニアたち。人生100年時代を見据え、定年後、新たな道に挑戦する人もいる。」

ナレ「東京都内の保育園で働く高田勇紀夫さん、67歳。保育士として働き始めてから、まだ2年しかたっていない。」

ナレ「60歳の定年まで、外資系IT企業、日本アイ・ビー・エムに勤めていた。アメリカに駐在し、世界を飛び回った。サラリーマン時代は、家庭よりも仕事優先で、我が子のおむつを替えたこともなかったという。」

高田さん「家内もだいぶ心配しまして、自分の子どもすら満足に育てなかったあなたが、よそさまの大事なお子さまを預かって大丈夫なんですか？と。」

ナレ「定年後に一念発起。通信で学んで、保育士の資格を取った。」

ナレ「なぜ保育士になったのか。」

高田さん「保育士が足りないために待機児童の問題が発生して、苦しんでいる人が特に若いご夫婦で、そういう方々が多いということに気が付いて、これは何かやらなくちゃいけないなど」

ナレ「オルガンの弾き方も一から勉強したという。」

高田さん「毎月曲が変わるんですよ。もう本当に汗だく、今も冷や汗が出て、子どもたちから、先生、音外したよ。といわれるので、」

ナレ「上司は20代だ。指示を受けながら、進めていく。高田さんは、今、週3日、保育園で働いている。」

高田さん「今の週3日の働き方っていうのは、ぴったり自分の体力ですか、気力に合うと思いますね。で、じゃあ残りの日に何をしているのかといいますと、例えば木曜日の日は、長年続けているテニスを自分自身のエネルギーの充填のために、他の日を使ってますね、ですから、私にとっては自分のそれ以外やりたいこともそこでもいろんな準備ができたり、見直す準備ができたり、とても週3日の勤務というのはいいのかなと思っています。」

ナレ「年金は、65歳から受給している。」

高田さん「企業年金、厚生年金でいただけるものを基盤に、まあ保育園でいただいて、あの、幸せに生活しています。」

ナレ「一方で、厚生年金の保険料を払い、支える側にも回っている。」

高田さん「ただただじゃなくて、払ってますから、社会の一員として貢献するように、してますんで、そういう意味でギブアンドテイクですね。国の公助だけをあてにしててもいけないし、また自助だけに頼って、肩の荷が重くなりすぎていけないし、そして、共助というんですか。地域なりみんなで助け合う、そういうのを、一緒に混ぜ合わせてですね、自分で頑張っていくと。」

ナレ「60代の新人保育士を、周りはどう受け止めたのか。」

女性保育士「年齢差もあるので、不安はあったんですけども、本当にお孫さんもいるということで、すごいお子さんの扱いなんかとかが上手にされているので、あい、もう安心して、預けられています。」

ほっぺるランド大谷口杉本恵子園長「いままでの人生経験がおりなのに、僕はまだ新人なのでということで、結構いろいろ若い先生とかにも、指導してもらいたいなこととおっしゃっていただいているので、すごくそのへんは、素敵だなーってというか、すごいなーって思っているんですよ。」

高田さん「もしもし、はい、今、終わりました。」

ナレ「仕事を終えたあと、すぐ妻に電話するのが、日課だ。」

高田さん「じゃあいつものように、ビールで、いっぱい、ふろ上がりに、やりますんで、買い物、特に今日は良いの？」

ナレ「高田さんにとって、人生100年時代とは。」

高田さん「60、70代は、人生100年時代の入り口だとわたくしは思っているんです。ですからその時点で、立ち止まって、自分がいままでやってきたことを振り返りながら、今自分に求められていることを、もう一度考えてみてですね、それに、場合によっては挑戦する。その為に必要なスキルがあれば学び直しを行う。そこで、残りの20年、30年をですね、急ぐことなく、ゆっくり、歩んでいけばいいのかなというように思っております。」

ナレ「人生100年時代を提唱した人物取材した。ロンドンビジネススクール教授、リンダ・グラットンさんだ。100年間生きることを前提として、新たな人生設計の必要性を説いた著書は、世界的なベストセラーになった。」

リンダ氏（吹替）「現代、世界各国が年金問題に直面しております。日本だけが抱えている問題ではありません。because 年金制度はもともとリタイアしてから10年生きるという想定で作られました。しかし、今はリタイアしてから30年もいきるようになりました。それで年金が足りなくなってしまうのです。だからこそ、今までよりも長く働くよう、人々に促す必要があります。」

ナレ「日本政府は高齢者の就労機会を確保するため、希望する人については、70歳までの雇用を、企業に努力義務として課す方針だ。来年の法改正を、目指している。」

ナレ「さらに年金制度の改革についても、本格的な議論を始めた。検討しているのは、受給開始年齢の選択肢を、75歳まで、引き上げることだ。」

リンダ氏（吹替）「日本もヨーロッパも移行期にあります。例えば10年前にリタイアした人は、安定した老後を期待していると思います。そういった人たちが、急に考え方を変えるのは、難しい。しかし私のように今からその時期に突入する人たちは、30年間の安定した年金生活があるという考えを改める必要があります。世の中はすぐには変わらない。10年はかかります。もう取り組んでいかないと。」

ナレ「老後も働き続けることが期待される人生100年時代。では、老後の資金が無く、働けなくなった高齢者たちは、どうすればいいのか。」

ナレ「さいたま市にすむ79歳の女性。3年前まで、住み込みでホテルで働いていたが、」

"女性「できるだけことはやろうと思って、まあ男勝りなこともやりましたけれども」

「いように使われたんですね。だから、それでもう体を壊しちゃったんですね。はっきり言って。」"

ナレ「若いころから、自営業や、パートの仕事が主だったという。年金の受給資格を得るだけの保険料を納めることができなかった。」

女性「納める金額が、すごい金額になっちゃったんです。それで納められなくなっちゃったんですね。それで、まあ、それをやってもおそらく戻ってこないなと思って、私は、やらなかったんですね。」

ナレ「働けなくなった時、こう感じたという。」

"女性「もう死ぬしかない、これはと思って、思いましたね。うん。家は無い、お金はない。」

「生活がずーっと80歳までできるほどの退職金なんてないですから、はっきり言って。」"

ナレ「行き場を失くした末、たどり着いたのが、貧困の人たちを支援するNPO、ほっとぷらすだった。女性は、ほっとぷらすの助けで、生活保護を申請し、アパートを借りることができた。」

ナレ「ほっとぷらすでは、相談にのる以外にも、月に1回、”いこいの会”として、一緒に食事を作って、無料で食べる場を設けている。」

記者「どうですか？こういった場があるというのは？」

いこいの会の参加者の男性（75）「いいですね。」

記者「どんなところが？」

いこいの会の参加者の男性（75）「まあ、その、食べられるから。ハハハ」

NPO ほっとプラス平田真実事務局長「正直なのいいですね。何も無く、ただ相談会をやる、相談の場をつくります。だと、やっぱり人が来ないというか、来づらい。すこしでもまあ、プラスになる部分というか、食事とかですね。」

ナレ「さらに、看護師を読んで、健康の相談にも乗っている。」

看護師「130、98ですね。ちょっと高いですかね。」

ナレ「年金だけでは、暮らすことができず、生活保護も多いという。」

ナレ「生活保護を受ける65歳以上の高齢者世帯は、この20年間で、3倍近く増え、今、全国で89万世帯に

上っている。」

ナレ「取材を受けてくれた女性は、ほんとプラスの支援について、こう話す」

女性「ただ家でボケっとしていると、なんかうつみたいになっちゃいますかね。私なんかもそうですけれども、孤独っていうのは一番怖いですわね。だからたまにここに、たとえ月一回でも1あの一、こういう皆さんと触れ合うってことが、すごく体にもいいし、精神的にも良いですよ。あまりしゃべらなくても、気持ちが安らぐっていう。」

ナレ「人生100年時代。貧困に苦しむ高齢者がさらに、増えていくことが、予想される。こうした人たちを、どう支えていくのか。」

平田氏「どこに相談していいか分からないですよ。どこにつながったらいいか分からないといった方々が我々の所に多く来られるかなあ？これから先、身寄りのない高齢の方とか、あと70代、80代だと、アパートを借りれないとか、相談はきっとこれからの社会で増えると思うので、」

平田氏「こういった居場所だったりとか、あのつながりを作る場であったりとかいうのを、拡大といたら、あれですけども、必然的に拡大せざるを得なくなるのかなーって部分は認識し、思っております。」

VTRを受けてスタジオでは以下に朱記したやり取りが繰り広げられた。

膳場「取材をした阿部ディレクターです。あの一人によって事情はさまざまでしたけれども、働きつづけていらっしゃる高齢者の方たちの表情がとっても良くて、なんかこんなふうな社会の中で働きつづけられたらいいなーって率直に思いました。」

阿部ディレクター「そうですね。今回取材したシニアの方、皆働くことを、前向きにとらえていました..。もちろん生活のためというのがありますが、やりがいがある。家にずっといるよりも、たのしいといった声が多かったです。そう感じられる理由の一つは、週3日だったり、1日3時間だったり、自分のペースで働いているからではないかと思いました。人手不足の中、企業にとっても助かるし、ウィンウィンといえるのではないのでしょうか。」

日下部「ただこの、年金制度そのものに対する不信感ってどんどんたかまっていて、このままでいいわけではないですよ。」

阿部ディレクター「あの、リンダ・グラフトンさんが、指摘されていましたが、昭和にできた年金制度は、もともとリタイアしてから10年を支えるものでした。長寿化で時代にあわなくなってきています。もうひとつ時代にそぐわなくなってきているのは、標準的な年金額を示す際に使われるモデル世帯です。このモデル世帯40年間サラリーマンの夫、専業主婦の妻となっています。将来世代がどうなるか、財政検証の際示されるのは、モデル世帯だけ。働き方が多様化している今、さまざまなケースを示す必要がありますし、働き方によって、不公平があってはいけないと感じます。」

金平「あの、例の2000万円問題以降ですね、政府はこの問題に関して、ふたをしてしまったような感があるんですけども、制度改革自体はですね、国民の立場から見ても、逃げてはいけない問題ですよ。」

阿部ディレクター「そうですね。自営業や、短期間のパートの方は、厚生年金に入れずに、低年金になってしまうケースが多いといいます。今制度改革で議論になっているのは、厚生年金の加入対象を広げることです。非正規の方が増える中で、できるだけ多くの人を入れる仕組みになった方が望ましいといえます。ただ、保険料を本人と企業が払うことになるので、負担は増えます。ま、どこまで対象を広げるかは、今月までにかけて、政治判断になってきますが、支援策を組み合わせ、取り残される人が出ないように期待したいと思います。」

膳場「以上特集でした」

この特集に当てられた時間は1527秒だった。

VTR 中でリンダ・グラフトンさんが「年金制度はもともとリタイアしてから 10 年生きるという想定で作られました。しかし、今はリタイアしてから 30 年もいきるようになりました。それで年金が足りなくなってしまうのです。」と年金制度の問題を指摘するシーンが取り上げられていたり、スタジオで阿部ディレクターが「もうひとつ時代にそぐわなくなっているのは、標準的な年金額を示す際に使われるモデル世帯です。このモデル世帯 40 年間サラリーマンの夫、専業主婦の妻となっています。将来世代がどうなるか、財政検証の際示されるのは、モデル世帯だけ。働き方が多様化している今、さまざまなケースを示す必要がありますし、働き方によって、不公平があってはいけないと感じます。」と問題提起をするシーンがあった。

それ自体は良いことであるが、利害関係者が多すぎるため寿命の変動や人口構造への柔軟な対応が難しいことや、特定のライフスタイルをモデルとして想定しつつもそこから外れている人をも強制的に加入させるためにモデルに当てはまる人とそうでない人の間に不公平を生じてしまうということは、公的年金に顕著な問題である。

またスタジオで日下部キャスターが「年金制度そのものに対する不信感ってどんどんたかまわっていて、このままでいいわけではないですよ」とコメントしていたが、民間の年金であれば、そもそも不信感が高まっているような年金には加入しないという選択が可能であるが、公的年金であるがゆえに不信感が高まっていたとしても強制加入させられてしまう、という問題もある。

このように、公的年金に特有の問題があり、それを示唆するようなコメントが多数あったにも関わらず、スタジオの論調は公的年金制度の改善・改革一辺倒で、そもそも公的年金を廃止していくという方向の議論は全く出なかった。これはあまりに一方的な議論であり、放送法第四条一項二号「政治的に公平であること」および同四号の「意見が対立している問題については、できるだけ多くの角度から論点を明らかにすること」に照らして問題であると言えるだろう。

最高裁判例の見地からの「印象操作」に関する所見および該当トピックの報道内容要旨

特になし

検証者所感

・オープニング：結論→特に問題なし

金平キャスターが「冷戦の象徴だったベルリンの壁が崩壊してから今日で 30 年になります、当時多くの人は壁がなくなったことを喜び、自由を謳歌しました。それが今、世界は再び壁を各地に作り出し、表現の不自由を嘆く世の中にいます、私達はどこからきてどこへ向かっていくのでしょうか。」とコメントしていた。

このコメントに当てられた時間は 24 秒で放送法上は特に問題は見られなかった。

・【特集】人生 100 年時代の高齢者と社会

スタジオで金平キャスターは「あの、例の 2000 万円問題以降ですね、政府はこの問題に関して、ふたをしまったような感があるんですけども、制度改革自体はですね、国民の立場から見ても、逃げてはいけない問題ですよ。」とコメントしていたが、この問題に関して蓋をしたのは「行政府」だけなのだろうか。

この問題を真剣に議論していけば、「年金廃止」という方向に向かいかねない可能性も十分にあるだろうが、そこまで徹底した議論は、実は与野党双方とも望むところではないのではないだろうか。

そうであれば、蓋をしたのは「政府」だけでなく「立法府」もそうだと、と言えるのではなかろうか。